**●●●●● ●●●●●●●**3月22日22:07

（…）メール拝読しました。

私以外にも、多くの教員（内部も含めて）が、同じような苦しみを抱えていることが良く解りました。大学のHPには、「研修をしました」という中島のアピールが載せられ、同時に他の教員も賛辞のレポートを書いているようです。恐怖政治が進行しているのだな、と憂います。

不思議に思うのは、何故、定年が守られないのでしょうか（80近い老人も）。何故辞めないのでしょうか。年金暮らしに成り下がるのが嫌なのか、「（問題がある組織であっても）何かしている」ということが毎日の活力や生きがいになるのか、お金が欲しいのか、わかりません。鶴光代、鈴木路子、藤田伍一（一橋教授）、太田信夫（田嶋先生もご承知の通り心理では著名。筑波より退職金も十分なのだから辞めたらとも思います。私の研究領域に近いので、この人には失望です。）、関口はつえ（保育関係著書多数）など、国立大学元教授が、なにゆえに中島に媚びるのかわかりません。私は、人生が不利になっても辞めました。この人たちには気概がないのでしょうか。

入学者激減したようですし、私学助成金も不交付になりましたが、そんなものでは効きません。文科省は私学の運営には踏み込めない、という報道もありますが、世論が許しません。どうか、戦い続けてください。遠方より応援しています。取り急ぎ　　　匿名